

# 経営系専門職大学院の課題

MBS 教授

青井倫一

# 経験から

- HBS 落ちるところはアカデミクス
- KBS 企業派遣にこだわりすぎ
- MBS 場所の優位性だけ？  
BSではないBS(機能重視)

当面 FB、スタートアップビジネスに集中

# 質と量の充実へ

- 文科省の認可で一息
- JUAAその他の第三者認証でもう一息

本当の問題は 市場への対応！

キャリア開発(チェンジ)の一環としての  
BSの持続的な発展

# 個人的な問題意識

- MBA投資のROIを高める
- 時代に合ったカリキュラムを基軸に
- クリティカルマスの達成するBSの規模
- アジアの成長に乗る(日本の特色は?)
- 使用言語 日本語・英語・中国語
- BSにおけるR&Dとは
- 差別化は学ぶ環境(科目群、プログラムではなく)

# ROI を高める

- 授業料 下げる（奨学金競争）？
- MBAホルダーの年収 アップ への  
雇用サイドへの働きかけ

卒業生との連携 強化・維持

（これまでは定員充足で息切れ）

BS業界の存在感をどう社会に訴求

“普通に学部の延長では先は？”

# GMの育成

- 教員は専門職(教授会の位置)
- BSのGMはどこに？
- カリキュラム(プロセス)で人材育成  
(個々の教師がゼミで育てるのは？)

ニーズに合わせたカリキュラムの革新  
を教授会の“抵抗”を排除して実行

# 差別化しすぎのBS

- 会計、MOT、知財 ニッチの持続可能性？  
規制産業に慣れ過ぎ！
- プロフェッショナルスクールとしての設計

誰がBSに投資をするか？

BSの整理統合は起こるか？

“いわゆる”学術大学院との距離感

# 伸びるアジアBS市場

- 存在感低下の日本のBS
- グローバル化とは？ 実験精神が必要
- 他国のBSとの競争意識 薄弱  
顧客は動く、国境を超えて
- 日本のBSの競争優位性の源泉はどこ？



# 言語

- 学生は柔軟、場の提供
- アジアでは日本語・英語・中国語・ビジネス語
- 教員が言語を選ぶ、学生が教員を選ぶ

# BSでのR&D

- 奇妙な教員の年齢分布
- 教員の“投資”システムへの対応
- 社会に蓄積した知恵を教室に(架橋の設計)
- BSがビジネス社会を先導できるか？
- 3点セット(例)

HBR

コンサル

MBA

# 大学はBSに投資をするか？

- EMBA

教員の本籍は各大学に

現住所は \*\*BS

規模は実験を可能にする

多様性は創造性を生む(混乱も)

鍵は 資本と\*\*BSのマネジメント

教授会は主人公ではない

# BSの価値はどこ？

- MBAプログラム(学位)に集中しすぎ
- 地域社会・ビジネス社会への貢献
- 連携プログラムの充実
- 経営管理からマネジメントへ

# 要は

- MBAの魅力      需要サイド
- BSに向けた教員養成      供給サイド
- カリキュラムで学生を教育する(個々の教授の品質保証ではなく)
- パートタイムMBAだけでいいのか？